

6・3制から 小中一貫教育へ

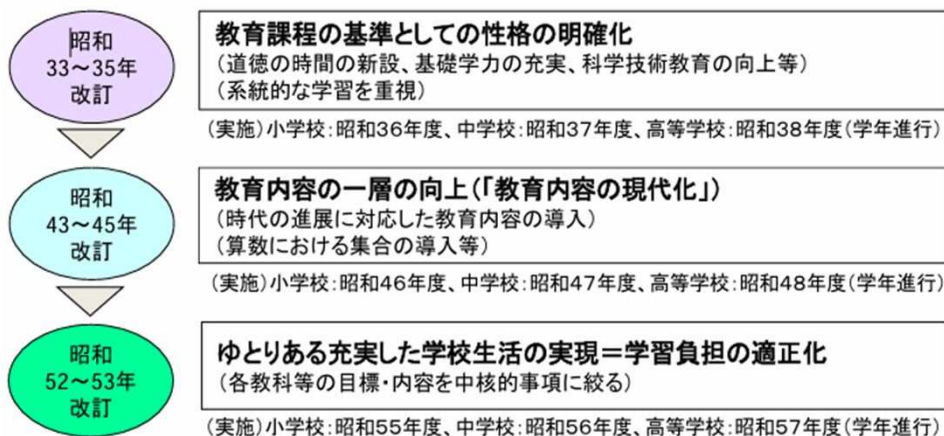
育ちの環境と学びの質の変化の中で

1

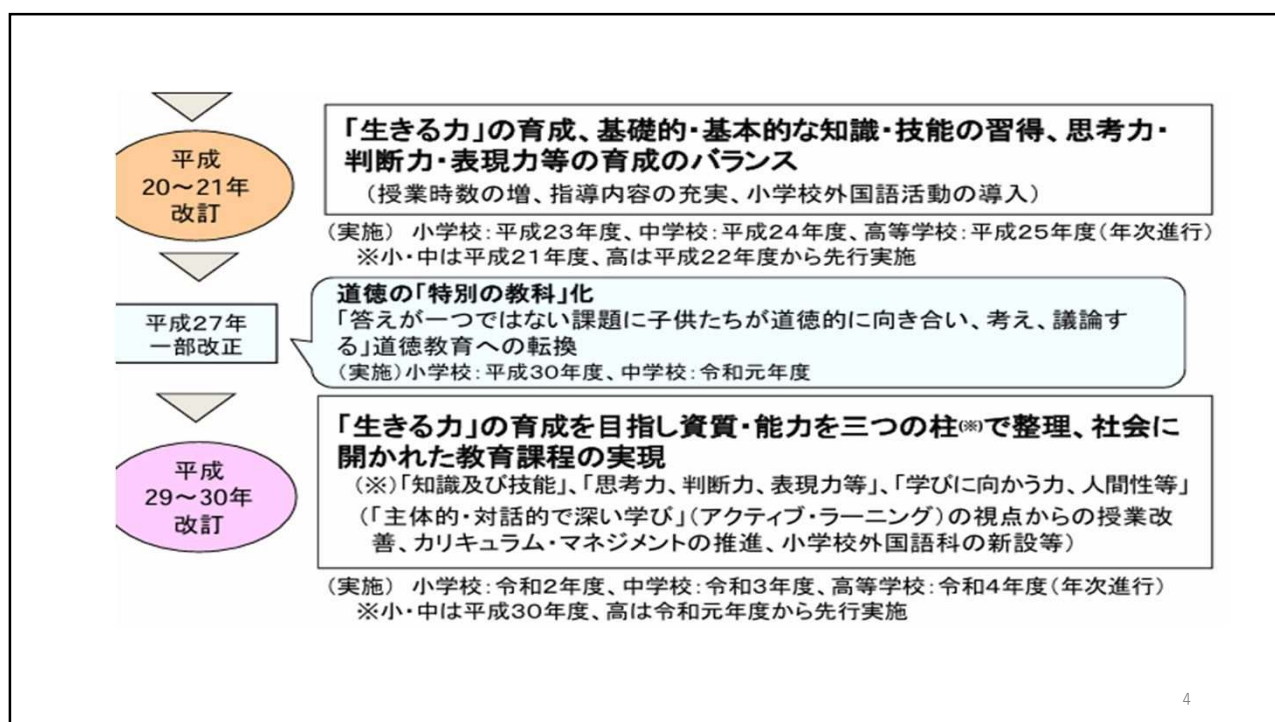
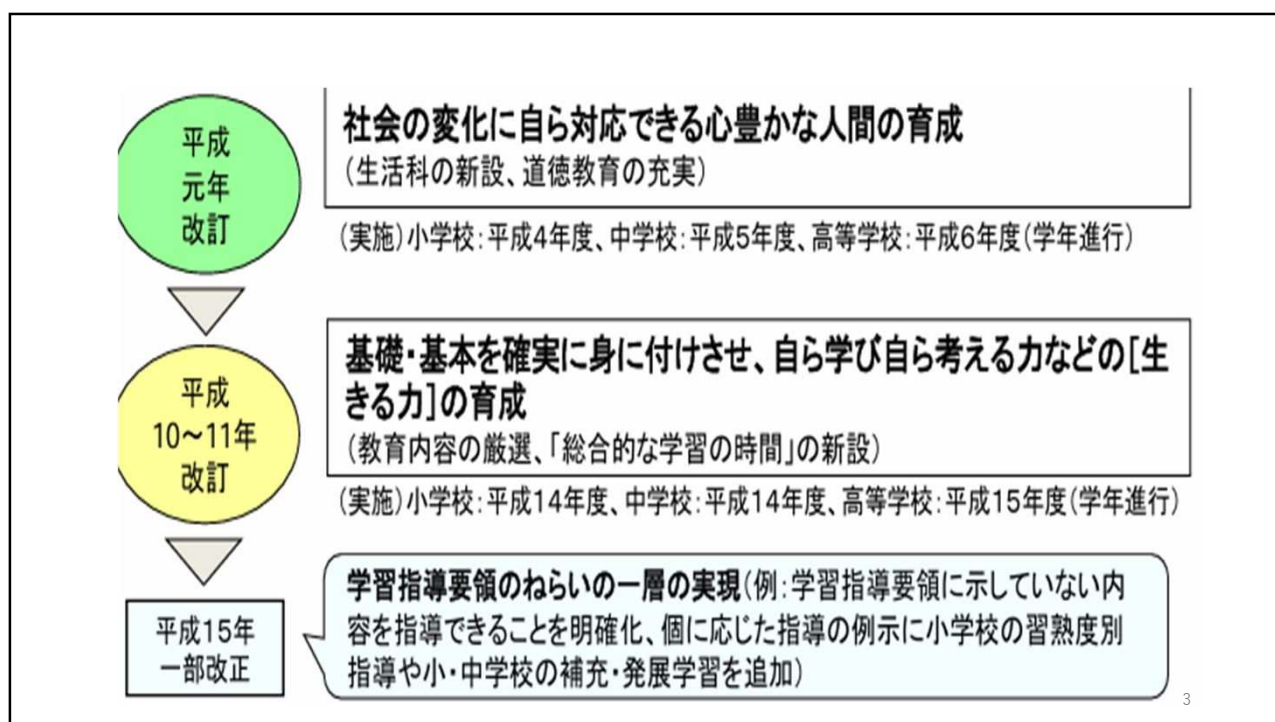
なぜ、小中一貫教育を目指すのか？

6・3制度開始から80年 学校教育で培う子どもたちの生きる力とは…

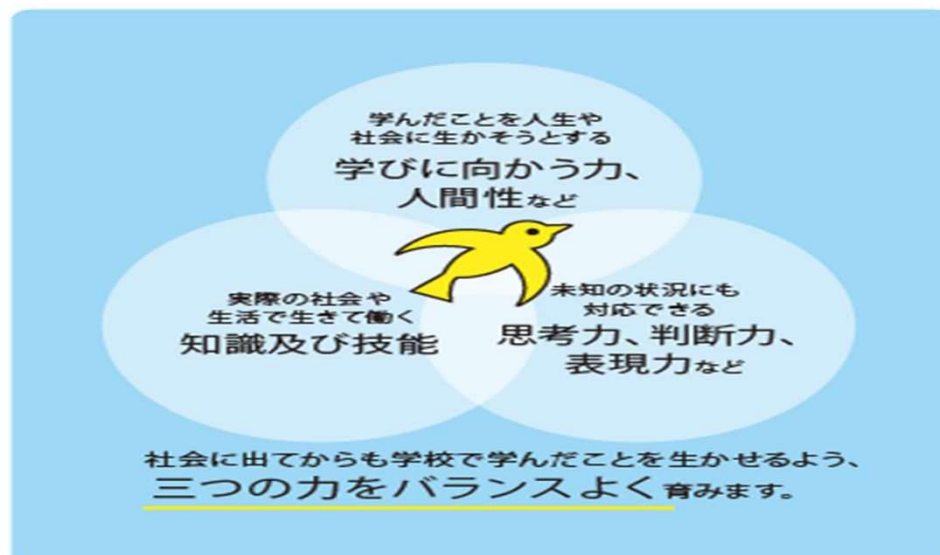
学習指導要領の変遷



2



未来に生きる子どもたち…
どのような資質・能力を身につけていくのか



5

このことと小中一貫教育との関係は？

○子どもが育つ社会がどんどん変化、教育内容や方法も変化していく

30年間を振り返ると… (私なりにまとめてみました。私見です。)

産業構造 社会構造の変化 → 生活の変化 価値観の変化

1995 (H7) Windows 95の発売 (8月24日) インターネットの商用化 (11月)

1997 ハイブリッド車の量産

2008 iPhone,Android (電話から情報端末へ) リーマンショック

2011 (H23) 東日本大震災 原発事故 スーパーコンピューター「京」

2019 令和改元 PayPay決済 ラグビーワールドカップ

2020 コロナ感染症 (世界的なパンデミック) → 一人1台タブレット

2022 (R4) ChatGPT(AI) の登場

学校と家庭・地域の協働的な教育関係の変化

(顧客意識 情報革命 教育の市場化 地域コミュニティーの希薄化)

社会生活の変化 家庭生活の変化 子どもたちの生活の変化

6

6・3 制度の義務教育から80年 時代とともに価値観が変化している

昭和 1億総中流意識	平成 情報革命 持続可能な社会	令和 成長の限界 地球環境の持続
<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済の拡大、成長 戦後経済の復興 高度経済成長 24時間戦えますか？ 消費は美德（大量生産大量消費） ○ 欧米経済・文化への憧れ 個人主義 民主化志向 ムラから都市（都会）へ 「家」から「個人」へ ○ 子どもには高学歴志向 受験競争 いい学校 いい会社 安定 終身雇用 年功序列 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済成長の停滞 バブル崩壊 デフレ（失われた30年） リーマンショック ○ デジタル社会への移行 Windows95 インターネット社会 携帯、スマホ デジタル庁 ○ グローバル化 少子高齢化 不登校の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナショック （リモート、オンライン交流） クレジット決済、デジタル決済 ○ 生成AI GIGAスクール ○ 働き方改革 ウェルビーイング

7

- **社会生活の変化**
 - (1) 少子化（兄弟姉妹の構成の変化） 子供世帯の減少 共働き世帯の増加 婚姻率の減少
 - (2) グローバル化の進展 価値観の多様性 DXインフォメーション
終身雇用制・年功序列の弱体化 契約社員 非正規雇用 転職市場
- **家庭生活の変化**
 - (1) 親子で向き合う時間の減少 家庭での学習支援の減少
生活リズムの乱れ しつけや価値観の親子共有の低下 教育のアウトソーシング
 - (2) PTAからの離脱 「情けは人の為ならず」 近所の消滅 モンスターペアレントの増加
- **子どもたちの生活の変化**
 - (1) 遊びの変貌（公園や空き地での鬼ごっこやかくれんぼ、木登りなどの消滅）
スマートフォンやゲーム機の普及 子供会の解散
 - (2) 異年齢集団の遊び（人間関係の縦社会感覚 自由なルール作り五感を駆使） から
決められたルール、マニュアルに従って個別に競う・楽しむ遊び

これらの変化の中で育ち、現在も生活している子どもたちが学校に集まる

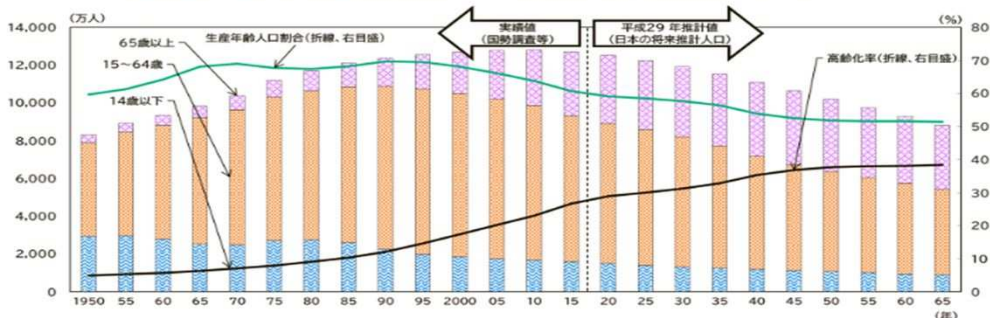
8

様々な未来予測から

厚労省HP資料から R5年

第2-(1)-1図 我が国の生産年齢人口の推移と将来推計

- 日本の人口は近年減少局面を迎えている。2065年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は38%台の水準になると推計されている。
- 15～64歳の生産年齢人口も減少傾向となり、その割合の低下も見込まれている。

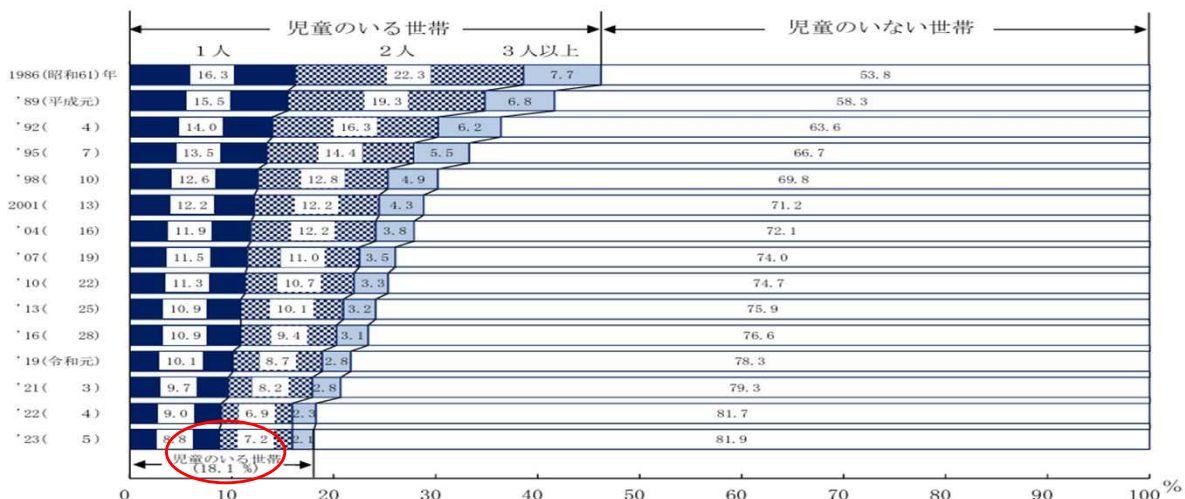


資料出所 厚生労働省「令和3年版厚生労働白書 資料編」をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて作成
 (注) 2015年までの人口は総務省統計局「国勢調査」(年齢不詳の人口をあん分した人口)、高齢化率および生産年齢人口割合は、総務省統計局「国勢調査」(年齢不詳の人口をあん分した人口)、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計):出生中位・死亡中位推計」をもとに作成。

児童のいる世帯

令和5年 厚生労働省 R6.7.5

図6 児童の有(児童数)無の年次推移



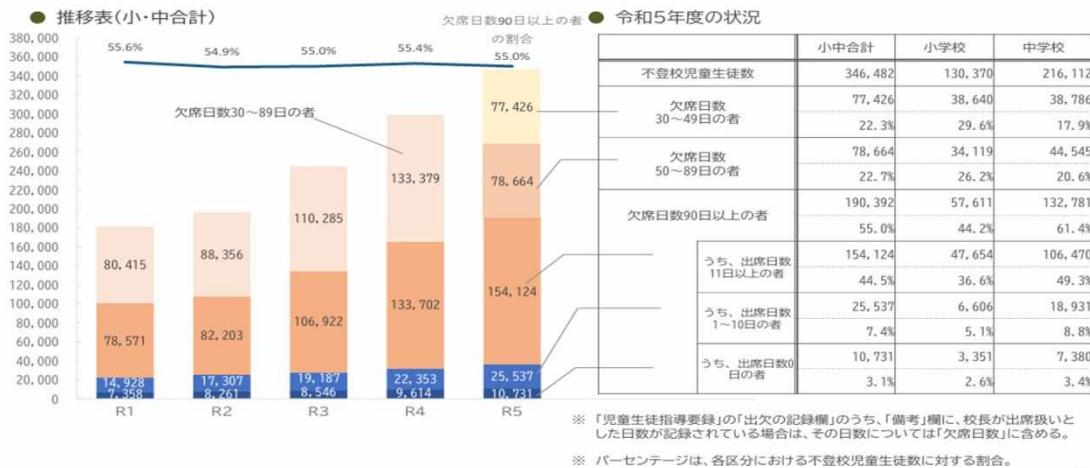
注: 1) 1995(平成7)年の数値は、兵庫県を除いたものである。
 2) 2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。

不登校の実態調査

文科省 R5年度

● 不登校児童生徒のうち90日以上欠席した者は190,392人(55.0%)であった。

不登校児童生徒の欠席期間別人数

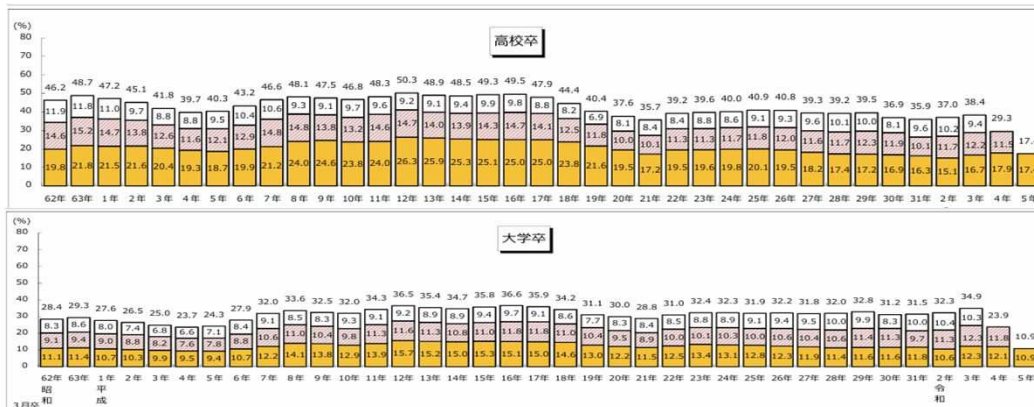


学歴別就職後3年以内離職率の推移

厚労省HP R6年公表

* 実は、高校・大学を卒業して就職しても平成7年(1995年)以降は3年以内に30%以上離職

年代	高校進学率	大学進学率	3年以内離職率	
1987年(S62)	94.3%	31.0%	高校(46.2%)	大学(28.4%)
2000年	97.0%	47.1%	高校(50.3%)	大学(36.5%)
2015年	98.5%	54.6%	高校(39.3%)	大学(31.8%)
2021年(R3)	98.9%	58.9%	高校(38.4%)	大学(34.9%)



社会の変化は教育を変化させ 教育の変化はさらなる社会への変化を促す

高校・大学を卒業 → 無事に就職 → 安定・安泰 → 定年退職 → 年金生活 本当ですか？
 これまでの30年 高校卒4割、大卒3割が新卒3年以内に離職でも…時代の変化が…？

時代	離職理由	背景・社会状況
昭和	職場不適応 待遇の不満 終身雇用・会社が人材育成	終身雇用・年功序列が強固で、転職は一般的ではなかった。離職は「やむを得ない事情」や「職場不適応」が中心
平成	ミスマッチ 将来展望が希薄 非正規雇用の増加 転職市場の拡大	「入ってみたら違った」「成長できない」「将来が見えない」など、キャリア形成の不安が離職理由として増加 転職市場が徐々に整備され、若手の転職が一般化し始める
令和	働き方 メンタルヘルス 成長実感 キャリアアップ	働き方改革、価値観の多様化、情報の透明化 リモートワーク普及による職場帰属意識の低下、SNSや口コミで企業情報が可視化など

13

離職率3割の“意味”は時代で違う 職業観、転職観の変化

「転職コンプレックス」 から 「成長転職・適性転職」へ

「終身雇用・年功序列」 → 「イノベーション・パラダイムシフト」の時代へ

離職 = 失敗ではなく、キャリアの選択肢の一つとして社会が変化

	労働者側の労働観・転職観	企業側の人事・採用観
昭和	安定重視・転職は例外 企業は“家族”。転職は「忍耐不足」と見られがち。長時間労働と忠誠心が美德	長期雇用を前提に人材育成。忠誠心と勤続年数を重視。
平成	バブル崩壊後、リストラ・成果主義が広がる「会社に尽くしても報われない」経験が増加。転職市場が整備され、転職が一般化。	バブル崩壊後、コスト削減と効率化が急務。成果主義・職能給・職務給が導入 外部人材の採用が増加。社内競争の激化
令和	SNSで企業情報が可視化され、ミスマッチが早期に発覚。転職は“前向きなキャリア形成”として社会的に肯定傾向	ジョブ型・人的資本経営・多様性 テレワーク普及でマネジメントの再定義 社員の自律的キャリア形成（リスクリング）を支援

14

キャリアの視点から 必要となる力（学校・家庭・地域）を考える
 テスト成績や偏差値でどこまで測れるか、どこまで身につけられるか？

- ① 自分の強み・興味を追究、理解する力（自己理解）
 不透明な時代、「何が好きか、何を大切にするか」が重要。
- ② 学び続ける力（リスキリングの基礎）
 これからの社会や企業は“学び続ける人”を求めている。止まらない変化。
- ③ コミュニケーション力・協働力
 組織や働き方が多様化するほど、対話力・協働力が価値を持つ。
- ④ 失敗を恐れず挑戦する姿勢（レジリエンス力）
 転職が選択肢なら、キャリアパスが終身雇用、年功序列を維持するのは困難。
 自己のキャリアを拓くには挑戦と修正を繰り返す力を鍛える。

↓

これらを鍛える **学びの場**としての **学校・家庭・地域**

15

第2部 なぜ、小中一貫教育なのか？

これまでの6・3制を支えていた状況が激変してしまった…

(家庭・地域)

子ども会 地域の祭り 隣近所の助け合い 年中行事の一員

「情けは人の為ならず」(地域みんなで子育て)

(学校)

先生から正解 友達と宿題・喧嘩・仲直り 放課後寄り道

知識伝達と情報処理「はかせ」 鬼ごっこ・野球少年 テレビゲーム

↓

携帯・スマホの普及 塾・習い事 個食・孤食化 子ども会不参加

↓

いじめ 不登校 学力格差 体力運動力低下

16

育ちの環境と学びの質の変化 なぜ、6・3制度から小中一貫なのですか？

○ 6・3制のほころび

(1) 異年齢との交流が減少していくと…

模範・モデルがない 人間関係の縦のコミュニケーションの不足

(2) 学校外活動が増加していくと…

学習塾、習い事の時間が増加 学校内・地域内の人間関係の希薄化

(3) 小中ギャップ

・小学校教育の生活指導と中学校教育の生徒指導の対応格差

その背景として

家庭での教育力の低下（親子が家庭環境で過ごす時間の減少・家庭
同士の関係の希薄）

地域での教育力の低下（地域コミュニティーのつながりの途絶・拒否）
各家庭や社会の「子ども観」の変容（自立させない お友達親子）

17

1. 現状から

子供たちの声、思い

小学校から中学校へ進学するんだけど…

○ 割り算や図形など算数も難しくなってきたみたい…

○ 教科書も読めない、書けない漢字が多くなってきたよ

○ 中学の教科書はなんだか難しいことが増えていくばかり…

○ 中学校で一緒になる別の小学校の人たちと友達になれるかな？

○ 部活の先輩や上級生からいじめられないかな？

このまま中学に進学してだいじょうぶかな？

中学進学への3つの垣根

「教科担任制」 「学業の不振」 「人間関係」

18

保護者たちの声、思い

「なんだか中学生の生活は大変そう 部活に受験, 思春期だし…」

- 小学校の勉強で躓いたまま中学校にあがったら…
- 中学校の教科書の内容は難しいそうだし…
- 中学校で新しい友達ができるのかしら
- 部活動の先輩や同級生にいじめられたら…
- 中学校の先生は怖そうで相談しにくいみたい
- 反抗期, 思春期にはどう対応すればいいの？

小学校から中学校の生活や学習について行けるのだろうか？
 保護者の不安 「受験」 「いじめ」 「部活」
 「学校に行きたくないよ…」と言われたら…

19

小中連携と小中一貫と何が違うの？

子ども目線での小学校と中学校の違い（小中ギャップの要因）

- 小学校では学級担任制であるのに対し、中学校では教科担任制
- 中学校では部活動が始まり、先輩・後輩関係など人間関係の広がり
- 小学校では学級ごとの学習,生活規律の生活圏重視の児童観から
 中学校での校則、学年ルールによる自主・自立への生徒観へ
- 小学校での学習の躓き（国語、算数中心）が中学校の学習に大きく影響
 （全教科担当傾向の小学校の学習指導 と専門教科指導の中学校の学習指導）
- 小学校からの生徒指導上の課題が中学校の生活、学習に大きく影響
- 小学校のキャリア教育・進路指導が中学校での進路指導で、教員も生徒も受験のプレッシャーを強く受ける

小6と中1を意識する連携教育 から 小1から中3を意識する一貫教育へ

20

学校も家庭も 小学校、中学校の区別を越えて一貫して関わっていくしかない！

- 学習、学力の躓きの予防と対応
 中学3年生の学習は小学校1年生から始まっている。
- 不登校や学校不適應の予防と対応
 中学校で急増する不登校の要因は小学校から始まっている
- 生徒指導上の問題や課題への対応
 生活指導 生徒指導
 第2次成長期 思春期前期の発達段階は小中で連続して成長している
- 小中ギャップの課題は、
 - ・ 学習内容の量と質
 - ・ 友達、親子、教師と生徒の人間関係

21

現状：小・中学校での学習（認知能力や非認知能力）の躓きをどうするか

- 筆算での躓き 割り算・分数での躓き
 漢字 言葉での躓き
 調べたこと、考えたことを発表する } 認知面
- 友達関係 仲間作りでの躓き
 教員との人間関係の躓き } 非認知面
- 自己調整力 自己効力感の欠如、不足

小学校と中学校の垣根や壁が高いと…

22

小学校の責任、中学校の責任、そして学校だけの責任で解決しますか？
子どもたちの成長を支える 学校、家庭、地域の教育連携がポイント！

- 高校進学率約99% 大学進学率約60%の時代
 - ・分数計算ができない ・面積が求められない
 - ・机上の問題はできても、現実生活に活用できない
 - ・漢字が書けない 文章が繋がらない
- 別々の小学校の児童が同じ中学校に進学する (小小連携?)
 - ・指導方法が大きく異なる (一斉指導 学び合い学習…)
 - ・学習評価の観点にズレがある
 - ・生徒指導方法に違いがある
- 小学校での学びを中学校へ継続することの重要性
 - ・小中学校の教科書を互いに研究し合う研修会の設定
 - ・生活指導、生徒指導カルテなどの小中の引継ぎによる生徒指導課題の共有
 - ・小学校と中学校にむしろ垣根、壁を強調する小中学校教員や保護者への説明

23

効果 (すでに小中一貫教育を取り入れている自治体調査から)
地方公共団体における取組例、成果及び課題① 東京都品川区② 東京都三鷹市
③ 広島県呉市④ 奈良県奈良市⑤ 鹿児島県薩摩川内市

- 中学生の不登校出現率の減少、
- 市町村又は都道府県独自の学習到達度調査、全国学力・学習状況調査における平均正答率の上昇
- 児童生徒の規範意識の向上、異年齢集団での活動による自尊感情の高まり、寛容や慈愛の態度の高まり
- 教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まり等の意識面の変化といった結果が得られている

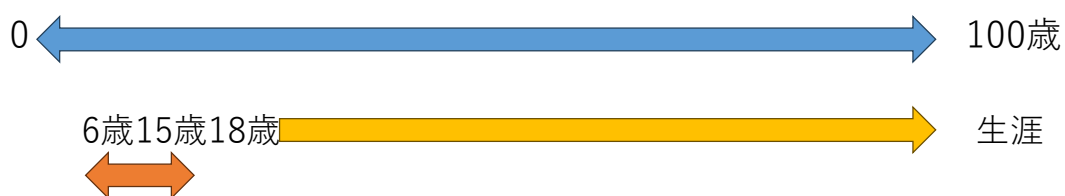
24

小中学校の学校教育にどんな学びを求めますか？

- 学校教育での学びは未来への投資とよく言われますが、
「未来に生きる学び」をどこまで考えていますか？



学校教育が目指す学びは どんな時代に変化しても
「主権者として自立して生き続ける」ための基礎となる資質・能力



25

変わらない子どもの発達について（発達心理学、教育学、等）

- 0-5歳 幼児（遊びと創造 大人の庇護・大人への信頼
好奇心と学び）
- 6-12歳 小学生（具体的思考から抽象的思考 身長・体重の成長
第2次性徴開始 自律・自立への芽生え）
- 12-15歳 中学生（思春期前期 自由と責任 権利と義務
科学的思考と批判的思考 進路意識の芽生え）



（例）義務教育修了→新聞記事が読めて、自ら調べて理解できる学力
→ 他者との基本的な対応ができる社会性
（挨拶 約束の履行 質疑・応答 自律・調整）

26

小中一貫教育も万能薬ではない！

「いろいろな種類の適度なストレスが子どもに働きかけることで、
心と体はどんどん育っていく」

「事故にならない程度に、小さな失敗をさせてあげるべきです」

高橋孝雄 慶應義塾大学医学部小児科主任教授

「脳が柔らかな幼少時は特に、自然の中に身を置き、同時にたくさん
の人と接して、できるだけ多くの実体験をさせることが大事なのです」

小泉英明 脳科学者 日立製作所名誉フェロー



学び合う中での同・異学年交流 体験・経験

27

今後の宿題として これからの義務教育の学びを支える家庭や地域

○学校教育目標 **かしこく やさしく たくましく** (変化しない目標)

目標を実現するには学校だけで教育を行うことはそもそも想定していない。

「**人格の完成**」を目標とする**教育は、学校だけでなく、家庭や地域も想定**している。

学校を核として、**家庭**と**地域**と連携して子どもたちを育てていくのが前提
ところが…

「道いっばいに広がって歩いている子どもの躰はどうなっているんだ」

「家で箸の使い方を教える時間などないので学校でよろしくお願いします」

「うちの子だけでなく、他の子どもたちもいじめているのに…」

「いつもの帰宅時刻を過ぎているのに、まだ帰ってこない。探してください」

「塾でも宿題がたくさん出されるので、学校では宿題を出さないでください」

と本来、家庭や地域、企業も総がかりで子どもたちの育ちに関わってくれば…

28

学校・家庭・地域が法のねらいを共有しているか？

実は学校経営はこれら法の下に運用することが基本

○ **教育基本法**の理念

- **第九条** 法律に定める**学校の教員は**、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。
- **第十条** **父母その他の保護者は**、子の教育について**第一義的責任を有する**ものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。
- **第十三条** **学校、家庭及び地域住民その他の関係者は**、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、**相互の連携及び協力に努める**ものとする。

義務教育9年間の学校、家庭、地域の姿とは…